

浪江町に、もっと子供たちの明るい笑顔を。プロジェクト

未来を担う子ども達のため、**子育て環境整備**にご支援をお願いします。

—浪江町の現在地—

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故による全町避難から 15 年。浪江町は今、再び歩み始めています。復興の歩みを進める中、持続可能なまちづくりのためには、未来を担う子ども達が安心して暮らせる環境整備が不可欠となっています。

—浪江町の子どもたち—

浪江町の現在の人口(令和 8 年 3 月末時点)は 2,471 人。これは、東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故前の約 12%となっています。避難指示解除後の平成 30 年度には、なみえ創成小中学校の生徒 18 名、浪江にじいろこども園の園児 11 名を迎えて学校再開・こども園新設をしました。令和 8 年度には帰還者・移住者の増加により、なみえ創成小中学校の生徒 92 名、浪江にじいろこども園の園児 59 名が通っています。復興が進むにつれて子どもの人数は増えていくと想定していますので、子どものための環境整備は重要だと考えています。

—浪江町の目指す姿—

浪江町の未来を担う新たな世代が安心して暮らせる環境整備を通じて、「戻ってきたい」「移住したい」と思ってもらえるようなまちづくりを進めます。また、子育てと仕事を両立しやすい環境の整備を通じて、企業の皆様にとっても、浪江町に進出しやすいまちづくりを進めます。

ハード（施設整備）とソフト（生活支援）、両軸で支える本プロジェクトへ、企業の皆様のお力添えをお願いいたします。



—ご支援いただきたいプロジェクト—

Project A：学びと遊びの場を整える【認定こども園増築事業】

●狙いと概要

待機児童の防止と、より快適な保育環境を提供するために、増築園舎の令和9年4月供用開始を目指します。

園舎増築後に使用する、子供たちが毎日触れる備品の充実を目指します。

●寄附金の具体的な使い道の例

給食を美味しく食べるための「食器・調理用具」

安全で楽しい保育室を作る「保育用備品」「カーテン」等

※こども達が使用する椅子、机、棚、カーペット等を購入します。また、寄附企業名を、備品への刻印、銘板の設置などでご紹介させていただきます。具体的方法は寄附時に企業様とご調整させていただきます。

●目指す成果（KPI）

こども園の定員枠拡大による待機児童ゼロの維持

安心・安全な保育環境の提供による利用者満足度の向上



Project B：暮らしの安心を支える【子育て世帯生活支援事業】

●狙いと概要

子育て世帯は教育費や生活費の増加に加え、低所得世帯における子どもの貧困などの課題を背景に、将来への不安を抱え、子どもを産み育てることに躊躇いを感じてしまう方もいます。

そこで、子育て世帯の経済的負担を軽減し、安心して子どもを育てられる環境を整えることで、「浪江町で子育てしたい」と思えるまちづくりを推進します。

●寄附金の具体的な使い道の例

新たな命の誕生を祝う「出産祝い金」

毎月の家計を支える「保育料助成金」

住まいの負担を軽減する「子育て世帯家賃支援補助金」

●目指す成果（KPI）

子育て世帯の転入数・定住数の増加

出生数の増加と、経済的不安の解消

—本事業による社会貢献—

企業の SDGs/ESG 経営の推進として活用いただけます。



—目標寄附金額—

学びと遊びの場を整える【認定こども園増築事業】 金 28,100,000 円

暮らしの安心を支える【子育て世帯生活支援事業】 金 28,800,000 円

※1社当たり10万円から受け付けております。

—企業のメリット—

①最大で寄付額の約9割が税額控除

以下の図のとおり、法人関係税から税額控除される仕組みです。



②広報・ブランディング効果

- ・町 HP への掲載、感謝状贈呈、プレスリリース等) により企業の PR に繋がります。
- ・被災地復興・少子化対策への貢献により、CSR 活動に積極的に取組み企業としてアピールできます。

③新たなネットワークの構築

プロジェクトの参加によって、官民連携や地域事業者とのネットワークが広がる可能性があります。

—お問い合わせ・お申し込み—

福島県 浪江町役場 教育総務課 子育て支援係 担当：新田

Tel： 0240-34-0252

Email： namie42030@town.namie.lg.jp

URL： <https://www.town.namie.fukushima.jp/soshiki/2/14474.html>

